

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分  
 【発行日】平成 18 年 11 月 2 日 (2006.11.2)

【公開番号】特開 2000-229379 (P2000-229379A)

【公開日】平成 12 年 8 月 22 日 (2000.8.22)

【出願番号】特願 平 11-359304

【国際特許分類】

**B 3 2 B 17/06 (2006.01)**

**B 3 2 B 9/00 (2006.01)**

**C 0 3 C 17/36 (2006.01)**

**C 2 3 C 14/06 (2006.01)**

【F I】

B 3 2 B 17/06

B 3 2 B 9/00 A

C 0 3 C 17/36

C 2 3 C 14/06 N

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 9 月 14 日 (2006.9.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも、ガラス基体、底部反射防止層、熱線反射層、頂部反射防止層、の順に構成された積層体を有するガラス積層体であって、底部反射防止層は、アルミニウムの窒化物を含む層を有することを特徴とするガラス積層体。

【請求項 2】

少なくとも、ガラス基体、底部反射防止層、熱線反射層、中央部反射防止層、熱線反射層、頂部反射防止層、の順に構成された積層体を有するガラス積層体であって、底部反射防止層は、アルミニウムの窒化物を含む層を有することを特徴とするガラス積層体。

【請求項 3】

アルミニウムの窒化物を含む層は、4 nm 超の幾何学的厚さを有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のガラス積層体。

【請求項 4】

アルミニウムの窒化物を含む層は、19.5 nm 未満の幾何学的厚さを有することを特徴とする請求項 1 ~ 3 いずれか 1 項に記載のガラス積層体。

【請求項 5】

頂部反射防止層は、10 nm 未満の幾何学的膜厚のアルミニウムの窒化物を含む層を有することを特徴とする請求項 1 ~ 4 いずれか 1 項に記載のガラス積層体。

【請求項 6】

底部反射防止層は、基体に隣接したアルミニウムの窒化物を含む第 1 層と、その上の、金属酸化物を含む上層とを有することを特徴とする請求項 1 ~ 5 いずれか 1 項に記載のガラス積層体。

【請求項 7】

頂部反射防止層は、金属酸化物を含む第 1 層と、その上のアルミニウムの窒化物を含む上層とを有することを特徴とする請求項 1 ~ 6 いずれか 1 項に記載のガラス積層体。

## 【請求項 8】

金属酸化物を含む層が、ZnとAlの混合酸化物層であることを特徴とする請求項 6 又は 7 に記載のガラス積層体。

## 【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 いずれか 1 項に記載のガラス積層体に、570 以上の温度で、曲げ加工及び / 又は強化加工を施すことを特徴とするガラス積層体の製造方法。